

(参考)

リン酸オセルタミビルの服用後に死亡した17歳以上の成人症例  
(平成18年1月21日～6月30日)

○ リン酸オセルタミビルとの因果関係が否定できないとされた事例

No.	年代/性別	報告年	事象	1日用量/投与 (処方) 期間	併用薬
1	80代/女性	2006年	アナフィラキシー ショック	75 mg/1日間	アセトアミノフェン 塩酸セフカペンピボキシル
慢性心不全の患者。発熱があり、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル75 mgを服用（併用薬は上記のとおり）。本剤服用直後にアナフィラキシーショックを発現し、約1時間後、病院に搬送されたが、死亡。リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェン、塩酸セフカペンピボキシルの関与は否定できない。					
2	70代/男性	2006年	肝障害 腎障害 播種性血管内凝固 多臓器不全	150mg/2日間	ベシル酸アムロジピン 硝酸イソソルビド シロスタゾール エパルレスタット トリアゾラム
狭心症、高血圧、緑内障、糖尿病、慢性気管支炎及び心房細動の患者。発熱があり、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル150mg/日を服用開始（併用薬は上記のとおり）。服用2日目、呼吸困難のため、入院。食欲低下、下痢、腹水を認め、肝機能が悪化。さらに腎機能も悪化し、播種性血管内凝固による多臓器不全と考えられ、輸血等が開始された。腹膜透析を施行するが、入院5日目、呼吸停止、死亡。なお、本剤のリンパ球刺激試験（DLST）の結果は陽性であった。					

○ リン酸オセルタミビルとの因果関係が否定的とされた事例

No.	年代/性別	報告年	事象	1日用量/投与 (処方) 期間	併用薬
1	30代/女性	2006年	死亡	75mg/1日間	非ピリン系感冒剤 セフジニル
急性気管支炎、慢性膵炎、アルコール性膵炎、慢性肝炎、アルコール性肝炎、光線過敏性反応、クッシング症候群、副腎新生物の既往歴あり。発熱、感冒症状があり、インフルエンザと診断され、アルコール飲酒後にリン酸オセルタミビル75mgを1回のみ服用（併用薬は上記のとおり）。その次の日の朝、布団の上でうつぶせになって死亡していた。検死の結果、死体背部、腹部に点状出血斑（紫斑）があり、病死とされた。					
2	40代/男性	2006年	死亡	75mg 又は 150mg/2日間 (処方)	非ピリン系感冒剤 イブプロフェン レバミピド 乳酸リンゲル液(ブドウ糖加) 維持液
痔瘻及びアレルギーの既往歴あり。睡眠時無呼吸症候群で治療中。インフルエンザウイルス検査結果は陰性であったが、発熱、関節痛、倦怠感及び寒気の症状があり、インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル75mgを服用（併用薬は上記のとおり）。高熱と脱水状態のため入院を勧められたが、入院せず帰宅。次の日の服用については不明。早朝、下痢等を発現。救急で搬送されたが、その日の夕方、呼吸停止し、死亡。剖検の結果、胃・大腸の出血等を確認。					

3	80代/女性	2006年	白血球減少症 無顆粒球症	75mg 又は 150mg/4日間	ロサルタンカリウム フロセミド 塩酸ベプリジル インドメタシン ロキソプロフェンナトリウム ゾピクロン セファゾリンナトリウム リン酸クリンダマイシン メロペネム三水和物 ワルファリンカリウム ポリスチレンスルホン酸カルシウム
心房細動、硬膜下血腫、大腿骨頸部骨折の既往歴あり。顔面皮膚悪性腫瘍、高血圧、不整脈で治療中。発熱、咳、感冒症状があり、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル150mg/日を服用開始（併用薬は上記のとおり）。服用前より白血球減少が発現。服用開始から2日後、白血球減少症に加えて無顆粒球症が発現し、人工呼吸管理となり、血圧維持困難となった。服用開始から4日後、重症肺炎、敗血症で死亡。					
4	50代/男性	2006年	自殺既遂	75 mg/1日間	アセトアミノフェン アミノ酸・糖・電解質
結核の既往歴あり。肺結核後遺症に伴う慢性呼吸不全に感冒を合併し、入院。入院6日後、院内でインフルエンザに感染し、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル75 mgを服用（併用薬は上記のとおり）。次の日の朝、自病室前のベランダから飛び降り、死亡。自室のノートに遺書有り。					
5	30代/女性	2006年	急性心不全	150 mg/1日間	パンテチン リスベリドン マレイン酸レボメプロマジン 酸化マグネシウム オランザピン カルバマゼピン 塩酸ビペリデン アセトアミノフェン
統合失調症、肥満、卵巣のう腫で治療中。体重100kg以上。発熱、倦怠感があり、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル150 mg/日を服用（併用薬は上記のとおり）。その日の深夜にアセトアミノフェンを服用。次の日の朝、心肺停止で死亡。					
6	80代/女性	2006年	汎血球減少	150mg/5日間	桂麻各半湯 バルサルタン
心臓ペースメーカーが植え込まれた、本態性高血圧症の患者。発熱及び倦怠感があり、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル150mg/日を服用開始（併用薬は上記のとおり）。その後、インフルエンザは軽快・回復するが、再度38℃以上の発熱が認められ、汎血球減少が発現し、入院。その3ヶ月半後、死亡。					
7	40代/男性	2006年	死亡	75mg 又は 150mg/3日間	非ピリン系感冒剤 アスピリン ヒベンズ酸チペピジン リン酸ジメモルファン プラノプロフェン 塩酸セトラキサート
期外収縮及び心房細動の患者。発熱、咳、鼻症状、関節痛及び倦怠感があり、インフルエンザの疑いで、リン酸オセルタミビルを服用開始（併用薬は上記のとおり）。服用3日目の夜、家人に気づかれぬまま車で外出。自宅より30km離れた海の岸壁で車が発見され、人が海に落ちた形跡あり。約2ヶ月後、海中より死亡した本人が発見された。					

（注）平成18年1月20日までの死亡事例については、厚生労働省ホームページ（<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/s0127-9.html>）をご参照ください。